

第3学年 外国語科学習指導案

令和5年11月9日(木)
中津市立緑ヶ丘中学校
3年2組 38名
指導者 南 小百合

1. 単元名 英語のエッセイを投稿しよう。

(SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 Program6 The Great Pacific Garbage Patch)

2. 単元について

(1) 子どもの実態(生徒観)

・身近な話題について自分の意見を書くことは経験してきており、抵抗感は少ない。
・タブレットを使って表現したい物を英語でどう言うかを調べることを許可しているが、翻訳機能に頼りがちで、自分の力で書いたり、英単語の意味を推測しながら読んだりする必要性をあまり感じていない。
・語彙や基本的な文型が身につけておらず、まとまった量の英文を見ただけで読むことをあきらめる生徒や、概要や要点を適切につかむことに課題がある生徒がいる。

(2) 付けたい力(教材観・単元観)

太平洋ごみベルトについて書かれた長文を読み、それに対する自分の考えを120語程度の英語で書くことができる。

【学習指導要領の領域別目標】

読むこと イ・ウ
社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要や要点を捉えることができるようにする。

(3) 指導の方向(指導観)

【学習活動・言語活動・手立てについて】

- 生徒にとっても身近なプラ製の買い物袋についての意見交換から導入したり、鳥やウミガメなどへの被害を映像で訴えかけたりすることにより、太平洋ごみベルトの問題を徐々に自分のこととして捉えさせ、長文を読もうとするモチベーションを高める。
- 辞書(機能)に頼らずにイラスト・写真・図表や日本語の説明部分を助けにして推測しながら読み進めさせることで、意味のわからない単語に出会ってもあきらめずに読もうとする態度を育てる。
- 初見の読み→場面ごとの読み→行間の読み取りのように繰り返し読ませ、その都度ペアやグループで内容を確認させたり、マッピングで表現させたりすることによって、語彙や英文のつくりの知識不足を補わせて要点をつかませる。
- 学習リーダーに授業を進行させ、一人ひとりに授業の主体者としての実感を味わわせ、学びに向かう力を高めさせる。

【言語活動例】

簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。

3. 単元の目標

エッセイコンテストに意見文を投稿するために、太平洋ごみベルトについて書かれた文章を概要から要点へと読み深めて、環境問題への自分の思いを固めるとともに、それを簡単な語句や文で書くことができるようにする。

※本単元における「書くこと」については、目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。

4. 関連する学習指導要領における領域別目標

読むこと	イ・ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。
------	--

5. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<p><知識> 目的格の関係代名詞 that, which、接触節の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p><技能> 目的格の関係代名詞や接触節などを活用して、太平洋ごみベルトについて書かれた英文の内容を読み取る技能を身に付けている。</p>	エッセイコンテストに意見文を投稿するために、太平洋ごみベルトの問題について書かれた英文を読んで、概要や要点を捉えている。	エッセイコンテストに意見文を投稿するために、太平洋ごみベルトの問題について書かれた英文を読んで、概要や要点を捉えようとしている。

6. 指導と評価の計画(8時間扱い)

指導に生かす評価:○ 記録に残す評価:◎

時間	学習活動	知	思	主	評価規準 【評価方法】
1	① エッセイコンテストについて知る。 ② 関係代名詞（主格）を含む英文の特徴、きまりや意味を確認する。 ③ 自己目標を設定する。	○			<p><知識> 関係代名詞（主格）の特徴やきまりについて理解している。 【記述分析】 【行動観察】</p>
2	関係代名詞 that, which（目的格）の用法を理解し、自分のお気に入りのモノを、画像を添えて紹介する。	○			<p><知識> 関係代名詞 that, which（目的格）の意味や用法を理解している。 【記述分析】</p>
3	接触節の用法を理解し、自分の好きな人や尊敬する人について、画像を添えて紹介する。	○			<p><知識> 接触節の意味や用法を理解している。 【記述分析】</p>
4 5 6	① 太平洋ごみベルトの存在について書かれた文章を図表や写真を参考にして読み進め、概要を捉える。 ② プラスチックごみによる被害について書かれた文章を映像や写真を参考にして読み、概要を捉える。 ③ ごみベルトの解決に挑むオランダ人青年について書かれた文章をマ	◎	○	○	<p><知識> 関係代名詞 that, which（目的格）、接触節をふくむ英文の意味を理解している。 【記述分析】</p> <p><技能> 関係代名詞を含む英文の理解を基に、英文の概要を読み取る技能を身に付けている。</p>

	ッピングにまとめ、細かい情報を整理することによって概要を捉える。				<p>【記述分析】</p> <p><思考・判断・表現></p> <p>《太平洋ごみベルトの問題について書かれた文章の概要を》捉えている。</p> <p>【記述分析】</p> <p><主体的に学習に取り組む態度></p> <p>《同上》捉えようとしている。</p> <p>【行動観察】</p>
7 (本時)	太平洋ごみベルトについて読み取った内容を、メモや写真等を活用して2～4つの英文で友達にリテリングし、要点をしばりこむ。	◎	◎		<p><思考・判断・表現></p> <p>《読んで得られた情報や表現を選択したり抽出したりして、メモや写真等を活用してリテリングし、要点を》捉えている。</p> <p>【記述・録音分析】</p> <p><主体的に学習に取り組む態度></p> <p>《同上》捉えようとしている。</p> <p>【行動観察】</p>
8	<p>① プラスチックゴミに関する自分の考え等をマッピングにまとめ、それを基に「導入」「展開」「まとめ」の構成で120語程度の英文に書き表す。</p> <p>② 自己目標を振り返る。</p>	○	○	○	<p>教科書本文の概要や要点を捉え、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書いている。</p> <p>【記述分析】</p> <p>*本単元では、「書くこと」について目標に向けて指導は行うが、記録にのこす評価は行わない。</p>
後日	ペーパーテスト (定期テスト)	◎	◎	◎	

7. 本時案

(1) 本時のねらい

A 【学習内容】 「太平洋ごみベルト」について書かれた英文から
B 【学習活動】 得られた情報や表現を選択したり、抽出したりしてリテリングすることを通して
C 【育成を目指す資質・能力】 要点を捉えることができるようにする。

(2) 展開

※習熟の程度に応じた手立て

全員活躍授業のための手立て

展開	学習活動	教師の手立て	評価規準
復習 (3分)	1 既習事項の復習	○既習の単語を短時間で復習させ、 <u>ペアで問題を出させ合う。</u>	
導入 (3分)	2 めあての確認	○単元のゴールを確かめた上で、本時のめあてを位置付ける。 「太平洋ごみベルト」の文章を読んで、要点を伝え合おう。	
展開 (30分)	3 教科書の内容の確認 4 リテリングの原稿作成 5 リテリング	○デジタル教科書で各自音読をさせ、内容を思い出させる。 ※音読や内容の把握が困難な場合は、部分的なスロー再生や日本語訳等を利用させる。 ○教科書に予め提示されたキーワードや図表・写真を基にロイロノートに担当するセクションのリテリング原稿を作成させる。 ○ <u>原稿をグループで共有させ、修正を加えさせる。</u> ○ペアで作成した原稿を基にリテリングをさせる。 ・相手のリテリングには必ずリアクションをさせる。	
終末 (14分)	6 要点の確認 7 振り返り	○リテリング原稿の中で、最も重要だと思う英文を選ばせ、理由とともにグループで交流させる。 ・予想→抽出→交流→調整→共有のステップで自分の考えを確かなものにさせ、伝え合わせる。 ※要点やその根拠が見つげづらい生徒には、キーワードに着目させる。 ○振り返りはノートに書かせ、①ノートの写真、②作成した原稿をロイロノートの提出箱に提出させる。 【振り返り】 グループで話し合うことでよりよいリテリング原稿を作ったり、要点をつかんだりすることができた。	〈思・判・表〉 《読んで得られた情報や表現を選択したり・抽出したりした原稿から、要点を》捉えている。【原稿・観察】 〈主・学・態〉 《同上》捉えようとしている。